



水産種苗研究所跡

● トピックス ●

現地で感じる中間貯蔵

中間貯蔵に関する情報は様々な媒体を通して発信されており、離れた場所でもその多くを知ることができます。しかし、JESCOはぜひ皆様に現地へ足を運んでいただきたいと考えています。

中間貯蔵施設の現地見学会では、中間貯蔵事業が安全に進められていること、土地をご提供いただいた方々のおかげで事業が成り立っていること、復興再生利用の必要性などについて、実際に現地を見ることによりお伝えしており、参加された方々からは「より深く理解することができた」という感想を多くいただいています。今回は、現地に来るとどのような感じられるのか、その一部をご紹介します。

現地見学会では、水産種苗研究所跡に立ち寄るコースがあります。この場所は、震災当時の姿を残したままであり、その風化した外観が静かに被災の記憶を伝えています。倒壊等の危険があるため現在は車内からの見学となりますが、建物の壁や屋根の傷みなどの様子が確認できます。現地での説明により、崖上に建つ研究所でありながら津波が屋根付近まで到達したという当時の状況と、目の前の景色とが重なることにより、あらためて震災の激しさを感じることができます。

こうした被災の痕跡が残る一方で、震災前と大きく姿を変えた風景もあります。水産種苗研究所跡へと続く道には両側に大きな土壌貯蔵施設が整備されています。案内スタッフにより、震災前は民家や畑が広がる日本のどこにでもある風景がここにあったことの説明を受けると、大切な土地をご提供いただいた方々の想いについて深く考えさせられます。

このように、被災の記憶を今に伝える景色と、土壌貯蔵施設



土壌貯蔵施設(左上)と水産種苗研究所跡(右下)

などが並ぶ現在の姿へと移り変わった景色に触れることで、地域が歩んできた道のりをより一層深く感じ取ることができます。

中間貯蔵施設の現地見学会では、現地で直接感じるからこそ伝わる情報を、数多く発信しています。本記事で紹介した内容以外にも、様々な施設を見学することが可能です。現地見学会は中間貯蔵事業情報センターのHPで予約を受け付けております。実際に現地をご覧いただくことで、中間貯蔵に関する施設や事業への理解が一段と深まりますので、ぜひご参加ください。

中間貯蔵事業情報センターHPはこちら



● 地域で今も大切に守り続ける正八幡神社

約1600ヘクタールある中間貯蔵施設区域の中に佇む正八幡神社は、長く歴史のある神社です。東日本大震災では鳥居や灯籠が倒れ、境内は大きな被害を受けました。原子力発電所の事故の影響によって長い間立ち入ることができず、震災から約1年後に正八幡神社の高倉宮司がようやく境内を確認した時には、「ここもか」と思わず声が漏れてしまったそうです。高倉宮司は、正八幡神社に入る前までに、震災により被災した神社をいくつも見てきており、正八幡神社の様子を見に行くことができなかった間に募った想いや、ようやく被災の状況を確認した時のやるせない感情が、取材を通して感じられました。

その後、地元の区長や役員の方々のご尽力され、神社の鳥居や灯籠は新しく整備され、現在でも定期的に手入れされています。また、神社の脇には震災後に建てられた石碑があり、そこには、再び人々の営みが戻ることを願う言葉が刻まれています。他にも、境内には立派なしだれ桜が植えられており、開花すると皆で知らせ合い、見に行くそうです。取材の中で高倉宮司よりその話を聞いたのち、実際に神社を見てみると、この場所に

は震災前からの生活の気配が確かに残っていると感じました。中間貯蔵施設区域の中で様々な施設が整備されていく中で、この場所は人々の営みが連続し、境内に静かに息づいているように思います。

中間貯蔵施設の現地見学会では、時間が許す限りこの正八幡神社を訪れ、石碑の言葉や再建の経緯、そして境内に植えられた桜の話などを案内スタッフが紹介しています。静かな境内に立つことで、震災の記憶と復興の歩み、そして地元の方々が抱く切実な願いに静かに触れることができる場となっています。



正八幡神社（左）と、取材に対応いただいた高倉宮司（右）

● 第12回知のネットワーク会合を開催しました！



総合討論の様子

環境放射能除染学会第22回講演会との共催企画として、第12回知のネットワーク会合を開催しました。今回の会合では、「復興再生利用・最終処分に向けた産学官をつなぐ技術ネット

ワークの構築」と題して、産からは、除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合、株式会社三菱総合研究所。学からは、日本原子力研究開発機構、国立環境研究所。官からは、環境省に加えて、中間貯蔵・環境安全事業株式会社からそれぞれ発表がありました。

また、それぞれの発表後、環境放射能除染学会理事長の大迫先生の進行のもと、総合討論が行われました。総合討論では、産学官それぞれの立場から、今後果たしてすべき役割や、復興再生利用・最終処分を実現するために抱えている課題、今後、産学官がどのように連携し、ネットワークを形成していくかなどについて議論が交わされました。発表資料の一部はJESCOのHPで公開しております。



JESCOのHPはこちら

情報センターだより

▼見学者アンケート

- 見学前と後では大きく印象が違っていたと思います。見学できる機会などが更に広く周知されればと思います。30代/いわき市
- 急に理解が進むことはないと思うので、少しずつ小さな場面で利用して、安全性をアピールする現状の方法が一番良いと思う。50代/双葉町
- 日常生活でも被ばくすること、その値と比べて復興再生土による追加被ばく量が少ないことがもっと認知されると、近くで再生利用しても良いという人が増えると思う。20代/東京都

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵事業情報センターは無料で見学できます。中間貯蔵施設見学は事前に予約が必要となります。



福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野 116 番 5
開館時間▶ 9:00～17:00 (最終入館 16:30)
休館日▶ 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/29～1/3)

編集後記



3月に入り、雪が降るほどの厳しい寒さの日もありましたが着々と春の気配が訪れています。中間貯蔵施設の一角で梅の花が咲いており、景色の中の小さな変化に心が和らぐひとときでした。